

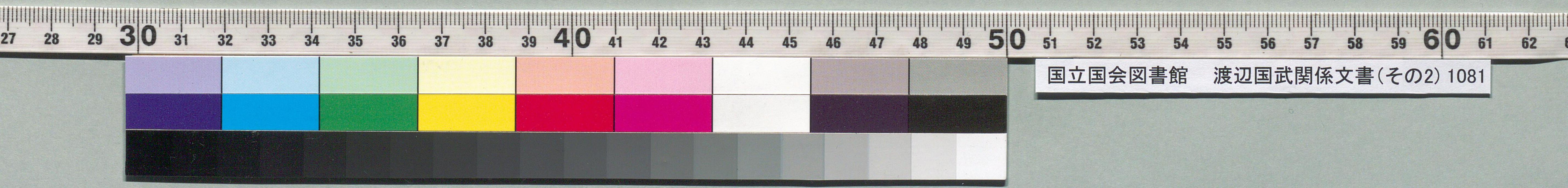
第十八節 <sup>第一</sup>章を以て明<sub>り</sub>の所の哲学の定

表の

東京  
林屋

又此四種部門的哲學が各四種研究的方面より  
ら研究せらるると各四種研究的方面より各四種後  
學的要素より研究せらるると居るのちやらず  
此等宇宙一切万有の根本的要素が自己の四  
より有して居る所の力同の四種方面の発見  
より起りしより下りて偶と四種方面より  
研究せらるると各四種研究的要素より研究せ  
らるると居るのちやらずと云ふは本  
論述の即ち此批字新系統一家言全的の關係  
一の批字の新義と四種の初め初めと云ふ  
研究的方面と六十四種の後學的要素と本  
事個個合して八十七種の條款と直ち此全  
宇宙一切万有の根本的要素が自己の中より  
有して居る所の力同の発見の各四種方面より  
の下りる

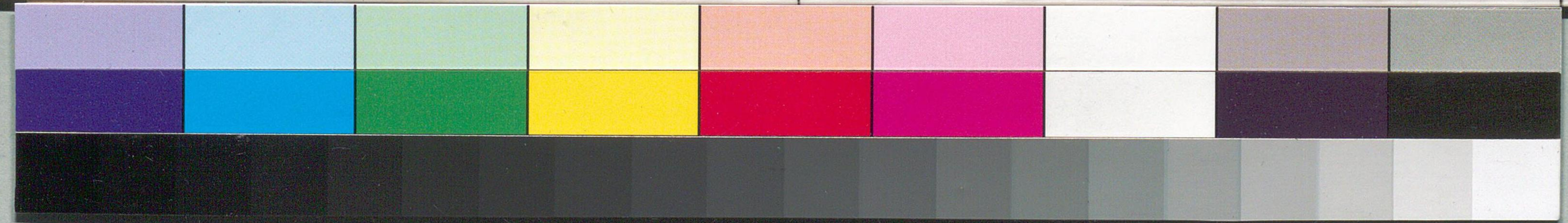
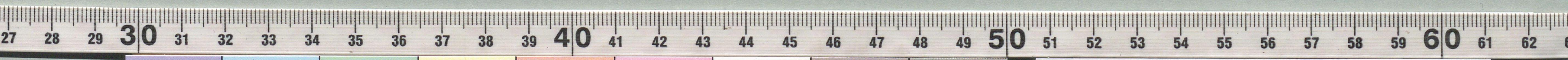
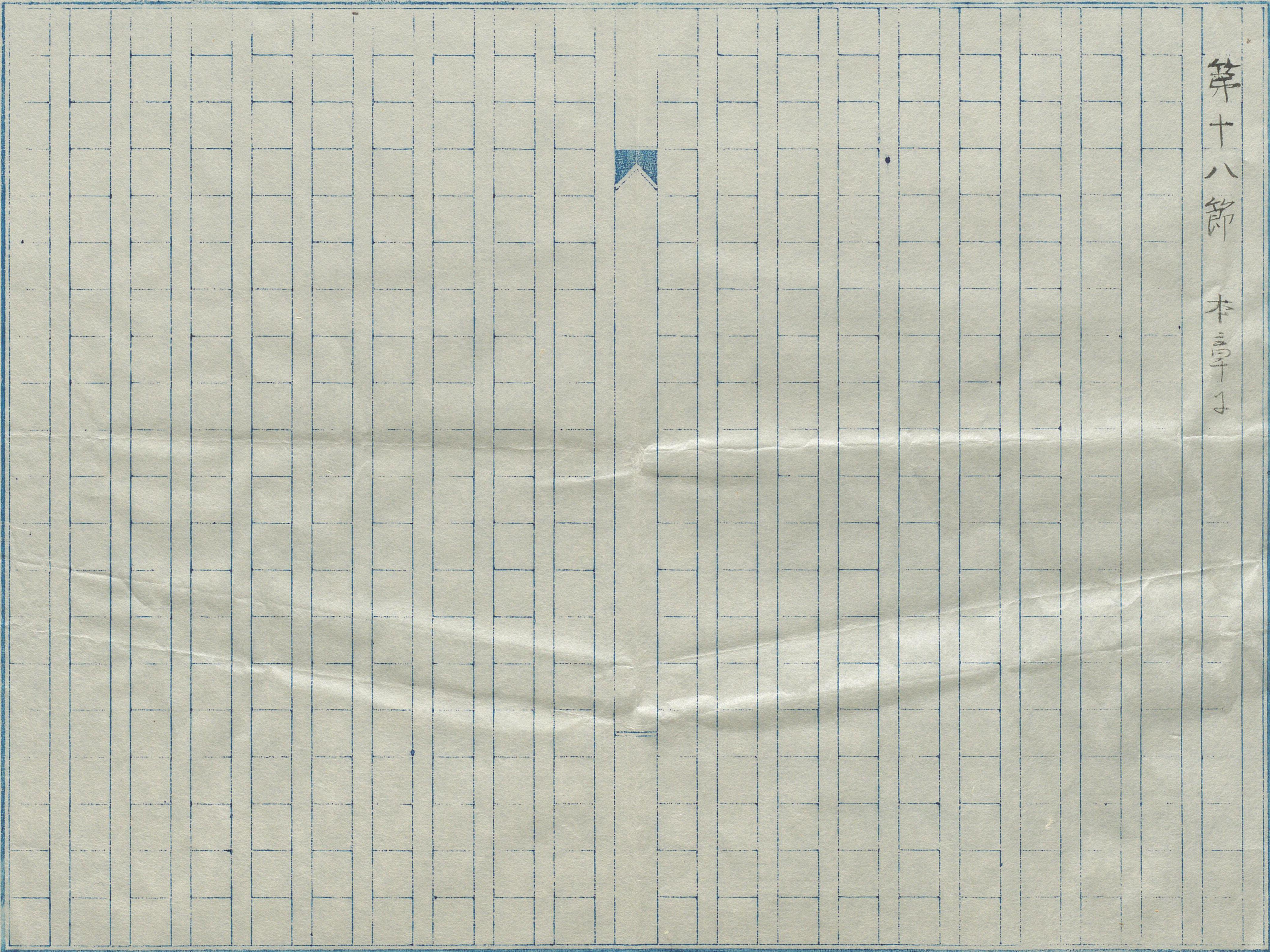
泉様原



居る所から発起ハツキのて有る、  
第二章下本講述の目的は、  
人類ヒトの最大幸福なる最大利益イキ、  
最大必要ヒツコト、  
最大超トる最大高際タカなる最大正義イキ、  
生活と道ミチの道と控サマる可べし、  
の七外ナナを卒業者人々ヒトに全字字一  
切万有の根本的原理の力用を因る表現せら  
るゝ其力用の中子生存活動して居るの決  
してさらるゝを以て考へて居る所の際  
解と成り根平的原理と妙合一致して居る  
と云ふ事なるもの下有る  
是等の説を本論に至る迄を説的述の下の  
るが今と日本講述全部の祖依か直ち全字  
當一切万有の根本的原理の力用と吻合一致  
して居る所以は氣を考へるのよ一語して  
まゝのて有る

第十八節 本亭子

原稿



第十九節 第一章の哲学の定義と定り本章

を其區分も明らかなるべくし、<sup>す</sup>就く今此係

の終り、<sup>す</sup>就く本清述に於ける哲学研究の

大體に關して一言して置かば、<sup>す</sup>其の

其れと外下とを以て本講述に於ける哲学の定義

と定め、<sup>研究の部</sup>其區分とを以て、<sup>研究の部</sup>と區別し、<sup>研究の部</sup>各部門的哲学

と各四種<sup>研究的</sup>方面より研究し、<sup>研究的</sup>各四種研究的方面

各四種<sup>研究的</sup>要素に就く檢査をなす、<sup>研究的</sup>皆皆

人々類の認識上思想上の必然の理法なりし

其の解の便宜なるや、<sup>研究的</sup>順序と立り、<sup>研究的</sup>開

係と定むるのを有るが、<sup>研究的</sup>其れが直ち此全宇

宙一切<sup>研究的</sup>固有の根本原理が自己の中に具有し

て居る所の四種<sup>研究的</sup>方面の発動と吻合一致し

る君の古何し、<sup>研究的</sup>三不不有る昔人々類の認

識上思想上の必然の理法なりし、<sup>研究的</sup>其の解の便

宜なるや、<sup>研究的</sup>順序と之關係と定めて、<sup>研究的</sup>組合

し、<sup>研究的</sup>此哲学新系統一家言全部が、<sup>研究的</sup>第三章

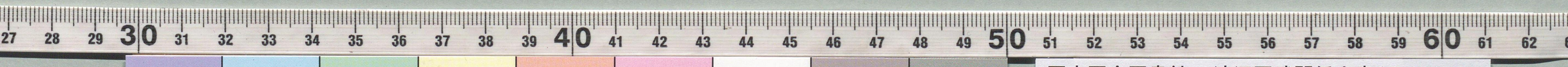
の、<sup>研究的</sup>其れが如く、<sup>研究的</sup>此全宇宙一切の

根本的<sup>研究的</sup>原理が自己の中に具有して居る所の

の

東洋哲学

の中の四種<sup>研究的</sup>要素に就く檢査をなす、<sup>研究的</sup>皆皆



凡人類が  
全宇宙一切の  
根本的原理を  
知るのて有る

力用の四種方面の発露と吻合一致して居る  
のも何う云ふに決て有る可と言へ  
此も吾人々類  
と其他の全宇宙一切萬有と俱に皆此根本的  
原理が自己の中を具有一居る所の力用を因  
る表現せられしもの下有るら吾人々類の思  
想上思想は必然の理法を直ち吾人々類と  
表現しし所の根本的原理の力用も一致して  
居るゆゑなりしもの當座の事と下有るの  
有る東西古今の哲学各系統の中を懐疑論の  
なすも三ふ一派を有る吾人々類の智識と皆  
相対的なる知能を絶対的の時此全宇宙一切万  
有の根本的原理を初らぬなりと云ふ論と之  
るものがあるの事之を吾人々類を其根本的  
原理の力用を因る表現せられし其根本的  
原理の中を生存活動し下居るの事吾人々  
類の生存活動悟性思想なりと一切の働かし  
直ち其根本的原理の働かし下有るを云ふ  
事とと忘れて吾人々類を他の全宇宙一切万  
有とも引き離し其根本的原理の力用とも引  
き離して自立自在にして居るやうに考へた

泉橋原

